



今月の3日は越前センターで話をさせていただきました。時間をもてあますかと思っただが、3時間でも4時間でも話そうだった。題は「デザインと生き方」みたいなもの。まあ聞かされるほうはかわいそうだが、話すほうは気楽だ。そのあと先月行った山へ又行って往復20キロ歩き酒を飲んで寝袋で寝て、又酒を飲んで帰ってきた。鹿にタープの柱を倒されたり、目の前に雷が落ちたりしたが、一応ザイルも持っていったので気楽なものだ。あとはひよんなことから知り合

った元気のあふれる会社を訪ねて、エジプトの砂と、アスワンハイダムの周りに植えた木でセラミックを作ろうと言う話を聞いてきた。また数日して新しく友人と「GAEA 環境研究所」と言うものを作って設立総会を地味こやり、二人になってなお馬前でこれからどうなってしまうだろうとぼそぼそと話して飲んで帰った。大体金がないのだから、自由に事業ができるわけもないのだが、友人が、金がなくとも、希望少しあるという仕組みをこしらえて呼んでくれたものだ。ありがたいと思うが、手かせ足かせで何ができるかという焦りがじりじりと沸く。その隣で小学生低学年くらいの子供をつれた母親などが集団で飲んでいて、子供たちのキャンキャンと天辺から発生するわめき声に、あやうく切れそうになったかなんとか撤退。そうしていたら日本に帰ってきた別の友人が私たちがリングラで作っているような便所をフィリピンで作りたいと言ってきて、又飲んでしまった。たくさん話したが少しも核心がわからず、翌日聞いたら、本人もほとんどまったく覚えてないと言うので、私がわからぬのも無理はないかと納得する。はっきりわかったのは丘のうちにフィリピンの田舎を彼ととぼとぼ歩いているんだろなと言うことだけだ。また毎日コーランを聞かされて、酒もないだろうが、危険性もけっこうありそうだな。

しかし、我ながらいったい何をしているのだ。きちんと根を張って生きているのかと、改めて思います。もっと地道に生きていかなければいけないのだと思うのだが、どうもやっていることがヤクザだ。まっとうな生き方をしなければ、こんなことばかりやっていると、いつどこで野垂れ死ぬかわからんな。まあ、やることはやっているし、子供は二人とも一応社会に出たからそれでもいいんだが、親はまだいるからそうもこっちの勝手に行ってしまおうわけにもいかなければとも考える。今月はそんな月でした。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TELFAX 03 5600 0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com